

令和2年度秋田県総合政策審議会 第2回産業振興部会 議事要旨

1 日 時：令和2年8月3日（月）10時00分～12時00分

2 場 所：県庁第二庁舎5階 情報化研修室

3 出席者

◎産業振興部会委員

秋田産業サポータークラブ幹事 喜藤 憲一（リモート参加）

株式会社アクトラス 代表取締役 眞田 慎

トータルサポートスクールリード学舎 代表 阿部 浩美

※東海林 諭宣 委員は欠席

□県

産業労働部 次長 佐藤 徹

〃 次長 斉藤 耕治

〃 新エネルギー政策統括監 齋藤 篤

〃 食品産業振興統括監 大友 義一

〃 参事 阿部 泰久

他 各課室長 等

4 眞田部会長代理あいさつ

喜藤部会長がリモート参加のため、眞田部会長代理よりご挨拶を頂戴した。

5 議事

◎ 眞田部会長代理

それでは議事に入る。

議事(1)次年度の提言に向けた意見交換・整理について事務局から説明をお願いする。

□ 事務局

・資料-2「令和元年度の提言と次年度の提言に向けた意見整理票」により説明

◎ 眞田部会長代理

事務局からの説明を踏まえ、ご意見、ご提言を伺いたい。

提言1 「成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成」について

◎ 喜藤委員

コロナ禍で輸送機産業に逆風が吹いている中で、県は推進体制をどのようにしていくのか伺いたい。

もう一つ、新エネルギー関連について、発電量で見るとというのは数が増えれば必然的に増えるので、経済効果がどれ位県にもたらされているか、しっかりと検証する必要があるのではないか。また、経済効果を測るうえで、発電量以外の指標が必要なのではないか。

□ 松井輸送機産業振興室長

コロナの感染拡大によって、乗客が減少し航空機の需要が落ち込んでいる。エアバスやボーイングなどの生産調整が国内の大手重工3社の業績にも影響しており、大手重工と取引のある県内企業にも影響を及ぼしている。

また、自動車産業でも、工場の操業停止などの影響が出ており厳しい状況である。

企業訪問を通じて、県としてどのような協力が出来るのか、ニーズの把握に努めていく。

□ 阿部参事（兼）資源エネルギー産業課長

風力発電については、参入している企業数は把握しているが、経済的な成果や金額的なデータは押さえられていない。企業にデータの提供にご協力いただければ良いが、なかなか難しい。今後工夫していかなければいけないところだと認識している。

□ 齋藤新エネルギー政策統括監

需要は一層増えていくことから、経済波及効果はあるだろうと思う。部品製造やメンテナンスのほかにも、食品や観光など様々なところに波及してくると考えられるので、こうしたことを念頭に置きながら、経済波及効果を測るための勉強をしていきたい。

◎ 喜藤委員

航空機産業はこれから更に厳しい状況になるだろう。当初予算はそれなりに確保していると思うが、推進体制は方向転換していくのか。

□ 齊藤産業労働部次長

現在の取組は継続していく。また、複合材や電動化等、次の時代に向けた研究開発を大学と一緒に進めており、次のフェーズへの備えを支援していきたいと考えている。

◎ 阿部委員

県内企業は企業努力によって、コロナの危機的状況を乗り切ろうとしている。もう少しこうした状況が続くと思うが、県にもきめ細やかな支援を実施できる体制を整備していただきたい。

◎ 眞田部会長代理

コロナの影響で医療用物資の供給不足があり、それに対して県でも取組を行っているが、その取組の経過について伺いたい。

□ 羽川地域産業振興課長

既に、県内企業が一定程度のボリュームを生産し、供給を行っているところである。

また、5月補正予算で、県内企業の医療福祉分野への参入促進のため、製品開発用の補助金を制度化したところであるが、多くの企業から手が挙がっている状況である。一方で、大ロット品ということになると、海外との競合等もあり中長期的には厳しい面もあるため、現場のニーズを踏まえた製品づくりやサポートを行っていく必要があると考えている。

提言2 「イノベーションの推進による産業振興」について

◎ 阿部委員

IoT・AI等の先進技術の導入の遅れにより、ビジネスチャンスで遅れを取る企業も出てくる可能性があると思う。IoT・AI導入のメリットや効果が可視化出来れば、新たな事業展開として導入を考える企業が出てくるのではないかな。

また、次世代の中核人材を育てるうえで、小中高生を巻き込んだ取組があると良いのではないかな。

□ 小林デジタルイノベーション戦略室長

導入のメリットの可視化については、セミナーを開催しているところではあるが、今後、IoTの具体的な事例をまとめWEBで公開するといったことなどについても検討していきたい。

ICT人材の確保・育成については、小学校で必修化されたプログラミング教育の指導に、県内ICT企業も参画できるような取組を行っているほか、中高生を対象としたプログラミング学習の機会において、県内ICT企業の技術者にメンターとして参加していただき、県内ICT企業について知ってもらえるような取組も実施している。

□ 今川産業集積課長

誘致したSCSKやJNシステムパートナーズなどでは、東京や首都圏の仕事を本県の分拠点で実施するニアショアを実施している。今後も、こうした企業を誘致できるよう頑張っ

ていきたい。

◎ 喜藤委員

コロナの影響でリモートワークがどんどん進んでいる。リモートワークしやすい環境を秋田で作ってあげていければ、企業のローカル拠点が出来る可能性があるのではないかと。

また、先進技術の活用を促進するには、核になる人が地域にいないと厳しいのではないかと。

□ 小林デジタルイノベーション戦略室長

リモートワークのしやすい秋田づくりについては、移住・定住促進課が6月補正予算で、リモートワークで社員が秋田に移住する可能性があるか、首都圏企業等に対してアンケートを実施する事業について予算化している。アンケート結果で、移住の可能性があるという回答した企業については移住を働きかけていきたいと考えている。その他、リモートワーク環境の整備についても、拠点となる施設整備の補助金を予算化している。

核となる人材については、まずは一つはこれから実証事業を進めていく。また、プログラミング教育についても、県立大の先生が小学生・中学生を対象にしたプログラミング教育を独自に行っているため、そうした取組も参考にしながら進めていきたいと考えている。

□ 今川産業集積課長

現在、あきた未来創造部と連携し、民間で運営しているサテライトオフィスのWi-Fi環境をさらに使いやすくしようとしているところ。最新型のWi-Fi設備を導入するところには補助を行う。

また、サテライトオフィスの紹介動画を作ったり、2泊3日でリモートワークを体験してもらえそうな取組も進めている。こうした取組を通じて、是非秋田を選んでもらえるようにしていきたい。

提言3 「中核企業・小規模企業者の活性化と生産性向上」について

◎ 喜藤委員

伝統工芸品や食品製造業については、せっかく良い物を作っても出口がしっかりしていないと経営が成り立たない。一連のサプライチェーンをしっかりと整備することが必要だと思ふ。

□ 羽川地域産業振興課長

全くご指摘のとおりだと思ふ。伝統工芸品については、基本的に右肩下がりであるが、その中で「大館曲げわっぱ」は非常に良い事例であり、こうした取組を他の伝統工芸品に

もしていければと思うものの、人がいなかったり、原材料の入手などで突破口が見えていないのが現状である。産業としてやるからには、出口も考えなければならないが、一方で、伝統工芸品には民俗文化伝承という側面もあるため、地元の市町村と連携しながら支援していくことが必要だと考えている。

□ 大友食品産業振興統括監

本県は米の生産量が全国第3位と多い一方、新潟県と比べると米菓の割合が低い。こうしたことから、米の加工分野に重点を置いて取り組んでいるところ。

また、製造を県内で内製化するという一方で、関係部局とやり取りしている状況である。

◎ 阿部委員

以前、ある機関に食品関係のアイデアを相談したところ、門前払いのような扱いをされたことがある。マッチング、繋ぐということを大切にするような体制を整備してほしい。

もう一点、起業促進事業の今後の方針について伺いたい。

□ 大友食品産業振興統括監

総合食品研究センターでは、技術相談を随時受け付けているほか、秋田うまいもの販売課でも出来上がった商品のアドバイスや販路開拓について支援できると思う。ただし、相談体制に関する発信については課題として認識している。いただいたご意見を踏まえ様々なところで発信していきたい。

□ 鎌田商業貿易課長

女性・若者の起業支援ということで、昨年度は意識の醸成・フォローアップといった観点から起業家交流フェスタや表彰等を実施している。

また、支援機関、金融機関等との連携体制の整備に向けて、創業支援プラットフォーム会議を立ち上げた。今年度はコロナの影響で進められていないものの、意見集約の機会として開催したいと考えている。

提言4 「国内外の成長市場の取り込みと投資の促進」について

◎ 喜藤委員

コロナ禍においても海外の成長の取り込みは重要だが、スケジュールをどう練り直していくかは確認した方がよい。

また、生産拠点の国内回帰については、特に秋田にこだわりのない企業をどのように誘致していくか、秋田の魅力の伝え方が大切だと思う。

□ 今川産業集積課長

おそらく、既に県内に拠点のある企業が設備を増強する、というケースが多くなると思う。新たに誘致するとなると、利便性や地域資源の面で秋田にどのようなメリットがあるかという視点が必要。今後、働きかける分野を絞って誘致を推進していきたい。

◎ 阿部委員

秋田のメリットや選ばれるポイントというのは、どのようなところがあると考えているか。

もう一点、県やジェトロなどで実施している海外展開に向けた支援の中で、パッケージメニューとして支援を行っているものはあるか？

□ 今川産業集積課長

誘致の面でアピールするポイントは人材である。Aターン登録している人数が他県と比較して多い。また、地域資源については、県内各地域で強みがあるので、そうしたところを訴求している。

□ 鎌田商業貿易課長

海外展開を希望する事業者向けの事業については、ジェトロが中心として伴走支援を行っているが、昨年度からは県も一緒に支援を行っている。昨年度は5社ご利用いただいた。

また、「あきた海外展開支援ネットワーク」でも情報共有を図りながら支援を行っている。

提言5 「産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備」について

◎ 喜藤委員

働き方改革については、未だに企業の意識が低いように感じる。働き方改革ができないと人はますます集まらなくなると思うが、どのように啓蒙していくか。

また、秋田になかなか戻れないのは、給料が低い、面白い仕事がないという事が理由としてあると思う。ある程度給料が低くても人が集まってくるような「楽しさ」を作り出すことが必要。

例えば、大手企業を誘致して、企業とともに県内で働きたいと思うような「楽しさ」を作り上げていくことが手っ取り早いと思う。

□ 鈴木雇用労働政策課長

働き方改革については、先進的な企業の事例について事例集にまとめ、広く普及しているところである。

「楽しさ」のある仕事については、これから関係各課とも相談しながら考えていきたい。

◎ 阿部委員

経営体力のない小規模企業者向けの支援施策について伺いたい。

□ 佐藤産業労働部次長

小規模企業者向けに、新たな設備投資や情報化のための補助金等を用意している。

◎ 眞田部会長代理

秋田の大学に進学してきている大学生を県外に流出させないということも必要だと思う。そうした方々がどれ位秋田に残っているのか、分かれば教えて欲しい。

また、そうした方々を県内企業が受け入れていくためにどういうことを進めているのか伺いたい。

□ 佐藤産業労働部次長

手元にデータはないものの、県外からかなりの数の学生が来ているが、県内定着は進んでいないのが実態である。

受入に向けた取組として、企業が大学に直接出向いて情報発信を行ったり、オープンカレッジ等で情報発信を行っている。

□ 齊藤産業労働部次長

今年から、県内2大学と県内企業と共同で、内閣府の地方大学・地域産業創生交付金を使って電動化を課題とした事業に取り組んでいる。これは技術課題をターゲットにして、企業と大学が一緒になって新しい事業に取り組みながら雇用創造を図っていくというものである。せっかく秋田に来て、馴染んでいただいた人材を、これからの秋田の力に変えていくという取組を進めていくところ。

◎ 眞田部会長代理

全体を通して言い忘れたことがあれば。

◎ 喜藤委員

秋田はワーストの項目が多い。県の人に言うのは酷だが、これからはまんべんなくではなく、絞り込んでやる、という意識を持って取り組んでいくことが必要なのではないか。

また、補助金ありきというのは良くないと感じている。事業者は補助金が無ければやらない、というのであれば最初からやらない方がいいと思う。

3点目に、「秋田ならではの」というものを明確に出していかないと厳しいと思う。そのためには、「高質な田舎」というものをもう一度見直していく必要があるのではないかと。

◎ 眞田部会長代理

環境・リサイクルについて、工業だけでなく、農業分野や水産分野等とも連携していくことで、何か取り組んでいけることがあるのではと思う。

□ 阿部参事（兼）資源エネルギー産業課長

金属しかリサイクルに取り組んでいないということではなく、もみ殻を燃料として使うということも取り組んでいる。他にも、水産物や木質系においてもリサイクルに取り組んでいる。目立っていないためご指摘をいただいたと思うが、決して取り組んでいないわけではなく、今後は目立つようにしていきたい。

◎ 阿部委員

コロナで大変な時期だからこそ、県の取組については、分かりやすくイメージしやすいようにストーリーを作ってPRしていくことが必要だと思う。

◎ 眞田部会長代理

以上で議事（1）を終了する。

議事（2）他の専門部会への意見について事務局から、説明をお願いします。

□ 事務局

総合政策審議会では、各分野にまたがる意見や、他の部会からの意見について、各部会の部会長が出席する企画部会において紹介し、各部会において検討していただくこととしている。当部会で所管する産業分野のみならず、農業分野や観光分野等について忌憚の無いご意見をいただきたい。

◎ 眞田部会長代理

他の部会についてのご意見、ご提言を伺いたい。

◎ 喜藤委員

観光分野はコロナで大変だと思う。アフターコロナを見据え、食文化、交通、温泉、イベント、名物を作る等、国内観光向けの態勢をもっと強化しPRしていくべきではないか。

◎ 眞田部会長代理

以上で議事（２）を終了する。

議事（３）その他について意見はあるか。

□ 事務局

- ・ 第３回産業振興部会は９月９日（水）に開催すること、次回までに提言書の素案を作成して最終的にとりまとめることを説明。

６ 閉会

◎ 眞田部会長代理

これで第２回の産業振興部会を終了する。

—— 議事終了 ——